

ふれあいの里で

樹液に集まる昆虫を探す！ 他の虫や花も鳥も

＊最初のお客様は、ネイチャーセンター前のネットにとまっていたオニヤンマでした。

オニヤンマ（鬼蜻蜓） ♂ … トンボ



- ＊特徴①＝黒地に黄色の縞模様。
- ＊特徴②＝翡翠色の複眼。
- ＊オニヤンマ科は左右の眼が1点でくっつく。

複眼のくっつき方（くっついている部分）

- ・ヤンマ科（ギンヤンマ等）＝幅広い。（複眼は大きい）
- ・トンボ科（ヤマアカネ等）＝それほどの幅ではない。
- ・カワトンボ科、イトトンボ科＝くっついていない。



- メスはオスより大きく、尾部に産卵弁が突き出る。



参考写真
♀

- トンボ目・オニヤンマ科。日本のトンボの最大種。
- オニヤンマは、翅（はね）を開いて、ぶら下がる。
 - ・トンボ科＝開いて止まる。
 - ・サナエトンボ科＝開いて水平に止まる。
 - ・カワトンボ科＝閉じて水平に止まる。
 - ・イトトンボ科＝閉じて水平に止まるのがほとんど。
- 時速70kmの飛行速度。食性は肉食性（トンボ一般と同じ）。ガ、ハエ、アブ、ハチなどを空中で捕食。オオスズメバチを捕食した、また、捕食された、という両方の記録が存在する。



参考写真
ヤゴ
5cmくらい。

ギンヤンマ ♂♀ … トンボ



松山さん撮影

コシアキトンボ ♂



参考写真 11.7.23 ふれあいの里

その他、トンボでは、コシアキトンボ、ウスバキトンボ、キイトンボを見ましたが、写真はなし。コシアキトンボだけ参考写真を！

＊外に出ると、大勢のカメラマンが盛んにシャッターをカワセミ（翡翠）



- ブッポウソウ目カワセミ科カワセミ属。留鳥。
- 土の崖（がけ）の斜面に穴を掘って繁殖する。
- 行動半径は1kmくらいらしいか？
- 雌は下のクチバシが赤色。雄は上下とも黒。

タヌキモ（狸藻）



- 池沼の水中に浮遊する多年生の水草。食虫植物。
- 水中の葉にある補虫袋に、ミジンコなどの微生物を吸い込む。
- 和名は、全体が狸の尻尾のように見えることから。

補虫

参考写真



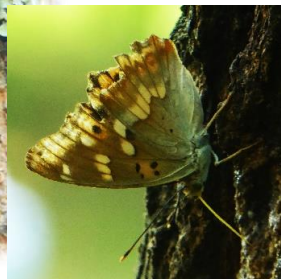
樹木に集まっていた虫たち

【クヌギ① 1本の木に集まって】
コムラサキ（小紫）♀ … チョウ

虫が集まる（樹液の）木の代表の一つであるクヌギは、もともと西日本の温暖帯地域には自生しない樹木で、この辺りで自生する虫の「樹液酒場」の木で多いのはアベマキです。ふれあいの里開設時に、アベマキを植えるはずでしたが、業者が間違えて、今、クヌギが育ってます。（*´ω*）

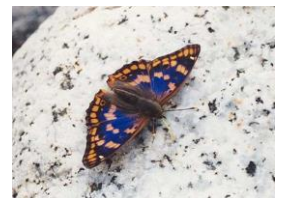


- タテハチョウ科コムラサキ亜科。
- 雄の翅の表面は美しい紫色に輝くので、この和名がつけられた。
- 雄雌とも樹液や熟した果実に誘引され、花にはあまり訪れることがない。雄は湿った地面や動物の死骸に集まる習性をもつ。

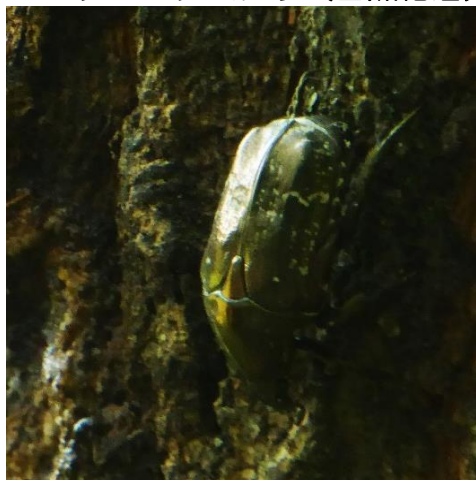


♂

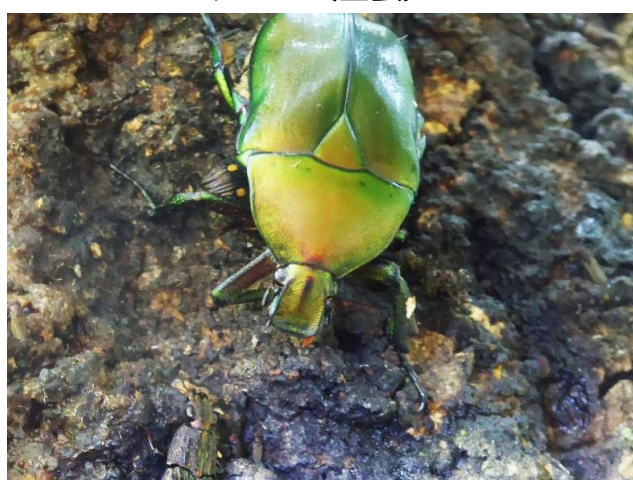
参考写真



シロテンハナムグリ（白点花潜）



カナブン（金蚕）



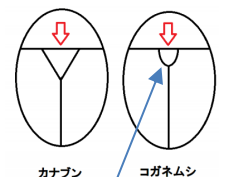
コガネムシ

参考写真



12.6.23

ふれあいの里



《違い》

	ハナムグリ	カナブン	コガネムシ
体色	斑点のような模様	緑褐色の金属光沢（緑・銅）	赤紫が入った光沢（緑・赤紫・黒紫）
体形	体が平べったい	頭は四角く、背中が平べったい	全体的に丸っこい。頭部も丸い形
体長	シロテンハナムグリはカナブンと同じ位	25～30cm	17～23cm
継ぎ目	大きく三角	大きく三角	小さく丸っこい
餌	花粉や蜜、樹液	樹液	葉

スズメバチ（雀蜂）



- ハチ目スズメバチ科に属する昆虫のうち、スズメバチ亜科に属するものの**総称**。一般的には、オオスズメバチを指すことが多い。
- 日本には、16とか24種が生息するみたい。
- 巣への接近者を突然攻撃してくる場合があるので、近寄るのは大変危険。（巣の防衛）
- 夏季には、クヌギなどの樹液の浸出部を、樹液を成虫の餌とするため同じ巣のメンバーで占拠した場合、自らの巣と同様に浸出部を防衛行動の対象とする。（特にオオスズメバチ）危険！1匹でいる場合は、何もしなければ襲ってくることはない。（でも、1m以上は離れて！）
- 昼間の樹液ではたいてい見かけるので、刺激しないように注意。
- 香水や黒い服は興奮させる恐れあり。
- スズメバチがこっちを向いて、カチッ、カチッという威嚇音を出し始めたら退散する。
- * 樹液のありかを教えてくれる道案内役でもある。

ヨツボシオオクスイ（四星大木吸）♀



▲ビロオオクスイ

- コウチュウ目カブトムシ亜科オオクスイムシ科。
- オオクスイムシ科は日本には3種。
他の2種=ミドリオオクスイ、ムナビロオオクスイ
- ムナビロオオクスイは上翅のスジが楕円の列になっている。

【エノキ】

カブトムシ（甲虫）



- コウチュウ目・コガネムシ科・カブトムシ亜科 真性カブトムシ族。
- クヌギやコナラなどの生える森や林に生息するコガネムシの仲間。

【虫を集める樹液を出す木】

- * 虫が集まる樹液を出すのは？
主にクヌギ、コナラ、アベマキ、ミズナラ、ブナ、カシ等の、「ブナ科」で、ドングリのなる木。その他、ヤナギ、カシ、ケヤキ、エノキ…（広葉樹）
（全ての木が樹液は出すが、特定の種類の木にしか虫は集まらない）
- * 樹液が出るように傷つけるのは、主にスズメバチ、カミキリムシなど。人が故意に傷つけた樹皮から樹液は出ない。
- * ある程度の樹齢を経ていて、幹に傷があり、しかも生命活動の活発な木。
- * 樹液の出ている木は、林の奥深くにはあまりなく、林の周囲や、道から少し入ったあたりでよく見つかる。南面。
- * 周囲を飛び回るハチやチョウの存在によって、樹液のありかを予測できる。
- * 風が弱くて蒸し暑い日が狙い目。特に、雨が降った日の翌日は、虫たちもお腹が減っているのでチャンス。

【クヌギ②】

ノコギリクワガタ（鋸鋏形）



- コウチュウ目・クワガタムシ科・ノコギリクワガタ属。
- 日本国内に広く生息している代表的なクワガタムシ。

【クヌギ③】
サトキマダラヒカゲ（里黄斑日陰蝶）



●チョウ目タテハチョウ科ジャノメチョウ亜科。

ここからは、樹液と離れて
モンキアゲハ（紋黄揚羽）…クサギの花に



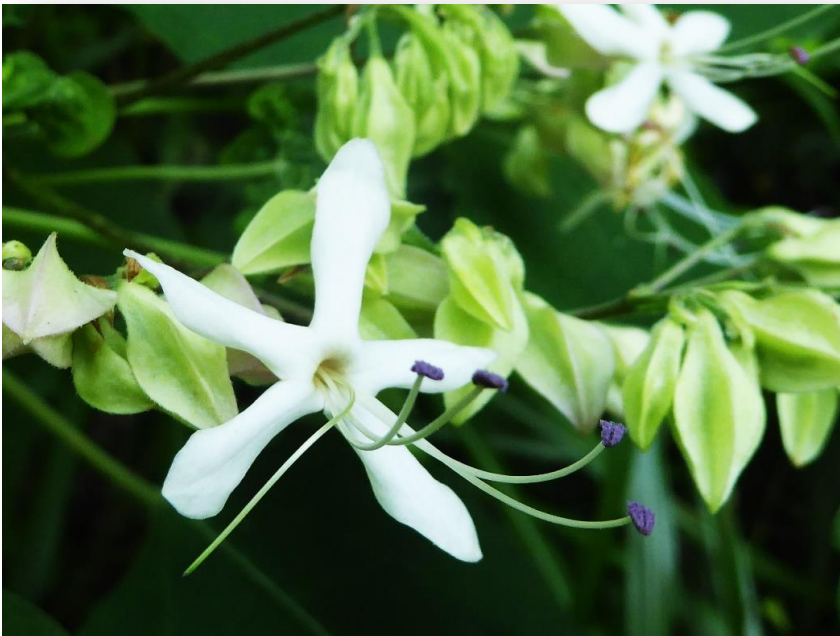
参考写真



*残念ながら、シャッターチャンスを逃し、右上に痕跡が。

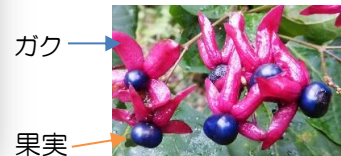
- チョウ目アゲハチョウ科。 12.7.28 ふれあいの里
- 日本最大級の蝶。
- 後翅に黄白色の大きな斑紋があるのが特徴。

クサギ（臭木）…花



- 落葉小高木（シソ科クサギ属）
- 枝や葉に強い悪臭があるのが名の由来。
- 花にはジャスミンに似た芳香がある。
- 昼間はアゲハチョウ科の大型のチョウが、日が暮れるとスズメガ科の大形のがよく花に来る。
- 雄性先熟＝雄しべ先熟によって近親結婚を避ける。

開花するとまず雄しべ(4個)を伸ばして花粉を飛ばすが、この時雌しべは下を向いたままで、同じ花からの花粉を受けることを拒んでいる(雄性期)。これにつづく雌性期には雄しべは萎れてしまい雌しべがピンと伸びて他の花からの花粉を待つ。 *写真は雄性期



参考写真

15.10.24
ふれあいの里

*「二色表示効果」で鳥の注意を引く。

シオカラトンボ（塩辛蜻蛉）



●雌は、ムギワラトンボ。

ノアザミ（野薊）



●花期は5～8月。秋に三河地方で見られるのはスズカアザミ（花期は9～11月）が最も多い。アザミの仲間では春に咲くのはこのノアザミだけ。（稀に10月まで咲く）

●葉の縁に小さなトゲが多くあり触ると痛い。莖葉にも小さなトゲがあり、

ノアザミ（キク科）

春の野辺 葉っぱに痛い棘がある

利用法 食用・根を薬用

基部は茎を抱く。

（栗本正子さんの「かるた」より）

トノサマガエル（殿様蛙）



- 両生綱・カエル目・アカガエル科
- よく似ている打ガエルは、①やや小型で手足が短い、②背中中央縦縞がないのが多い、③背中や足に丸い黒い斑紋が散在、④鼓膜の後ろにある黒スジがあまり目立たない

キンミスヒキ（金水引）



- 多年草（バラ科キンミスヒキ属）
- ミスヒキの金色バージョンがキンミスヒキというわけではなく、お互いに全く別の植物。ミスヒキはタデ科イヌタデ属

ヌマトラノオ（沼虎尾）



- 多年草（サクラソウ科オカトラノオ属）。
- オカトラノオは、葉の幅が広く、花穂の上部が垂れるが、ヌマトラノオは頭を垂れない。



参考写真

オカトラノオ

トラノオ（サクラソウ科）
花の穂が虎の尻尾に似て曲がり

利用法 食用・薬用
(栗本正子さんの「かるた」より)

マメコガネ（豆黄金）



- コウチュウ目・コガネムシ科
- ダイズやブドウなど農作物の葉も食い荒らすので害虫として扱われる。
- 日本在来種だったが、1916年以前にアメリカに移入。天敵の少ない北アメリカで一気に分布を広げ、重大な農業害虫となった。（逆外来）

コガネグモ（黄金蜘蛛） ♀



- クモ目コガネグモ科
- 雌の腹部には幅広い黄色と黒の横縞模様があるのが特徴。雄は雌の1/5程度とはるかに小型で、体色は茶色一色。
- 足の配置(2本ずつ)に合わせて、網の上に糸の帯でできた白いジグザグの模様をつける。クモの姿を隠すものという意味で「隠れ帯」と呼んだが、実際にその効果があるかどうかは分からない。



参考写真

腹部の縞模様が中央で遊離している

チュウガタコガネグモ

アオバハゴロモ（青羽羽衣）



- カメムシ目ヨコバイ亜目アオバハゴロモ科。ミカン類、クワ、イチジクなどの汁を吸う。吸汁性害虫だが実害はあまりない。

ニホンカナヘビ（日本金蛇）



- カナヘビ科カナヘビ属。日本の固有種。
- カナヘビ科で日本に生息するものは6種。
- ニホントカゲは、トカゲ科トカゲ属。
- *①カナヘビの方が尻尾が長い、②カナヘビはうろこが目立ちカサカサ感。トカゲはうろこが細かくつやつやと光沢がある。

ベニシジミ（紅小灰蝶） … チョウ と ヒメジョオン（姫女菀）



◇ベニシジミ

- チョウ目シジミチョウ科ベニシジミ属。
- 成虫の前翅長は1.5 cmほど。
- 春型のベニシジミの翅は明るい赤橙色で、夏型は黒っぽい赤橙色。

◇ヒメジョオン

- キク科ムカシヨモギ属
- *ハルジオンとの違い
 - ・葉のつき方＝ハルジオンは茎を抱く。ヒメジョオンは抱かない
 - ・茎＝ハルジオンは真ん中が空洞。

ヒメジョオン（キク科）

北米の白い姫菊夏に咲く

地方名 メイワクソウ

（栗本正子さんの「かるた」より）

クマツツラ（熊葛）



- 多年草（クマツツラ科クマツツラ属）

キツネノマゴ（狐の孫）



- 1年草（キツネノマゴ科キツネノマゴ属）。

ルリシジミ（瑠璃小灰蝶） … チョウ （みか？）



- チョウ目シジミチョウ科
- 翅の裏側（裏翅）は、灰色地に小さい黒斑が並ぶ。表側（表翅=開いたところ）は青色（瑠璃色）。メスでは青色が薄く縁の黒っぽい部分が広がる。

裏翅

参考写真



ウチワヤンマ（団扇蜻蜓）



- トンボ目サナエトンボ科。
- 「ヤンマ」と付くが、サナエトンボの仲間。
- 腹部の第8節には、黄色を黒色で縁取ったうちわ状の広がりがある。台湾ウチワヤンマにも同様な広がりがあるが、色は黒色のみであり、大きさも少し小さい。

台湾ウチワトンボ

参考写真

参考写真

ウチワヤンマの腹部



台湾ウチワヤンマの腹部



ふれあいの里 13.7.27

＊最後は、ふれあいの里駐車場入口の木の上に止まっていたウチヤンマでした。
“オニヤンマに始まり、ウチワヤンマで終わる”

観察の後は、涼しい研修室で高山植物スライドショー（10:30～）



参考写真



＊写っているスライドの花は「キソチドリ」です。

キソチドリ

P.S ; 紹介忘れと追加説明

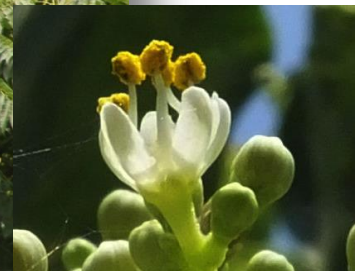
＊満開のカラスザンショウです。

カラスザンショウ（烏山椒）

松山さん撮影



雄花 参考写真



- 落葉高木。（ミカン科サンショウ属）
- 樹皮は灰褐色。幹や枝に短く鋭い刺が多い。古くなると刺はなくなり、刺の基部のいぼ状突起だけが残る。
- 葉は大きく、長さ80cmほどにもなる。複葉。
- アゲハチョウ科のチョウの食草

◇今回登場の「チョウ」の食草

蝶	食草
コムラサキ	ヤナギ科植物に限定（タチヤナギ・カワヤナギ・シダレヤナギ・コゴメヤナギ、ポプラ…）
サトキマダラヒカゲ	ササ、タケ類（メダケ、マダケ、クマザサ…）
モンキアゲハ	ミカン科（カラスザンショウ、ハマセンダン、コクサギ、サルカケミカン、ユズ、カラタチ…） 成虫は、 <i>クダ</i> の花に蜜を吸いに来ていました。
ベニシジミ	タデ科植物（スイバ、ギシギシ、ノダイオウ…）
ルリシジミ	マメ科、バラ科、タデ科、ミカン科などの花やつぼみ

〈食草〉とは？

- *チョウが幼虫の時にエサとする葉を、食草・食樹という。
幼虫は、食べる植物の種類が決まっています、成虫はその植物に産卵する。
従って、その植物を見つければ、目当てのチョウと出会う可能性が高くなる。
- *アゲハチョウの多くはミカン科が食草であり、ナミアゲハもそうである。
ナミアゲハに似たキアゲハは、セリ科が食草（セリのほか、ニンジン、パセリ、ミツバ…）。
似ていても、食草が違う例である。